

# さいたま市立浦和高等学校

## 青少年赤十字JRC

高校生ボランティア・アワード2018

### 「核不拡散・核軍縮に向けたユースムーブメント」

#### 活動概要

青少年赤十字活動を通じて、国際人道法や救急法を学び、「奉仕」「健康安全」「国際理解親善」に向けた実践活動を行っています。エコ・バック推進運動やエコ・キャップ回収活動(ポリオ撲滅キャンペーン)を基軸に南北格差と共生の道を探っています。熊本大震災復興活動、ネパール緊急援助の募金や現地リサーチを実施しました。

また、今年には国際連合創設72年に当たり、市民が意識を持ち国と国の友好関係を築くことを願い、継続活動を行っています。具体的には国連軍縮会議に端を発して、平和促進会議、国際学生プレゼンテーション、市民フォーラムの企画・運営を行ってきました。その担い手として、私たち高校が出来ることは少ないですが、その小さな力を集めることが重要になってくることに気づき今回の「市民フォーラム」を実施しました。企画にあたり、保護者、地域の方々、行政の方々、内外の高校生からの意見をいただき、継続的に「核兵器のない世界構想から行動へ着実な前進」に向けた活動を行っています。



### 「提言」

#### 活動の目的・志など

平成23年から続けてきた国際学生プレゼンテーションでは「市民による核廃絶に向けた草の根活動」を、平成24年度には「政府によるハイレベルな外交政策と市民活動の融合」、そして、平成25年度の国際学生プレゼンテーションでは、学生たちが共に原子力問題について議論出来る世界高校生会議に触れて、一つ目として「国際連合は人道的な観点から軍縮問題に取り組むべきだということ」、二つ目として国際連合は核問題に関するPR戦略を向上させるべきだということ」をまとめております。そして、外務大臣への提言を実際に外務省で実施しました。また、今までの発展型として、市民に対して発表することにより、高校生の国際問題への理解を高め、国際社会で活躍できるような人材へと成長する機会としてきました。中高一貫校として学年を越えて継続的な活動を実施しています。

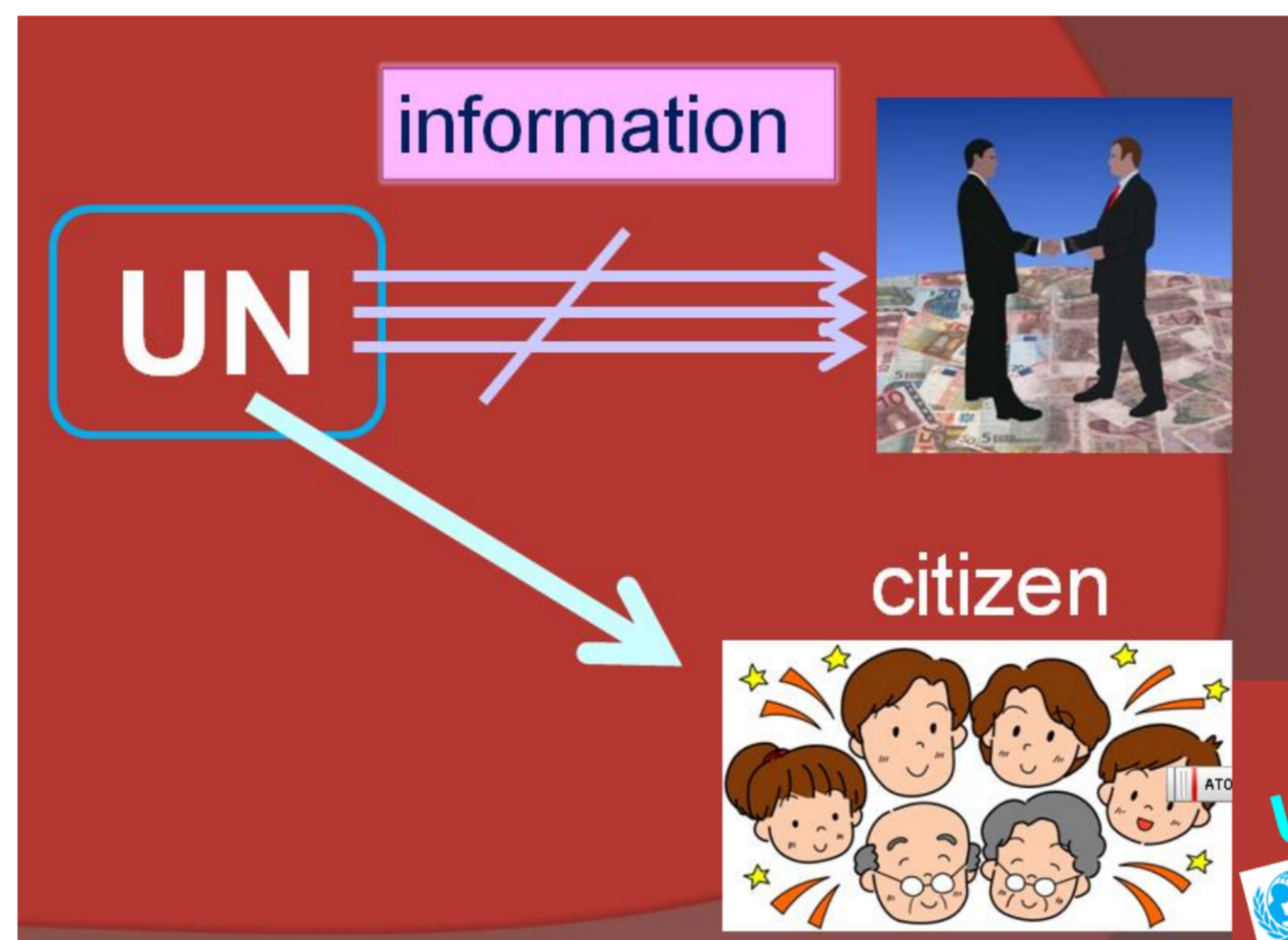


### 「活動目標」(グローバルリーダー)

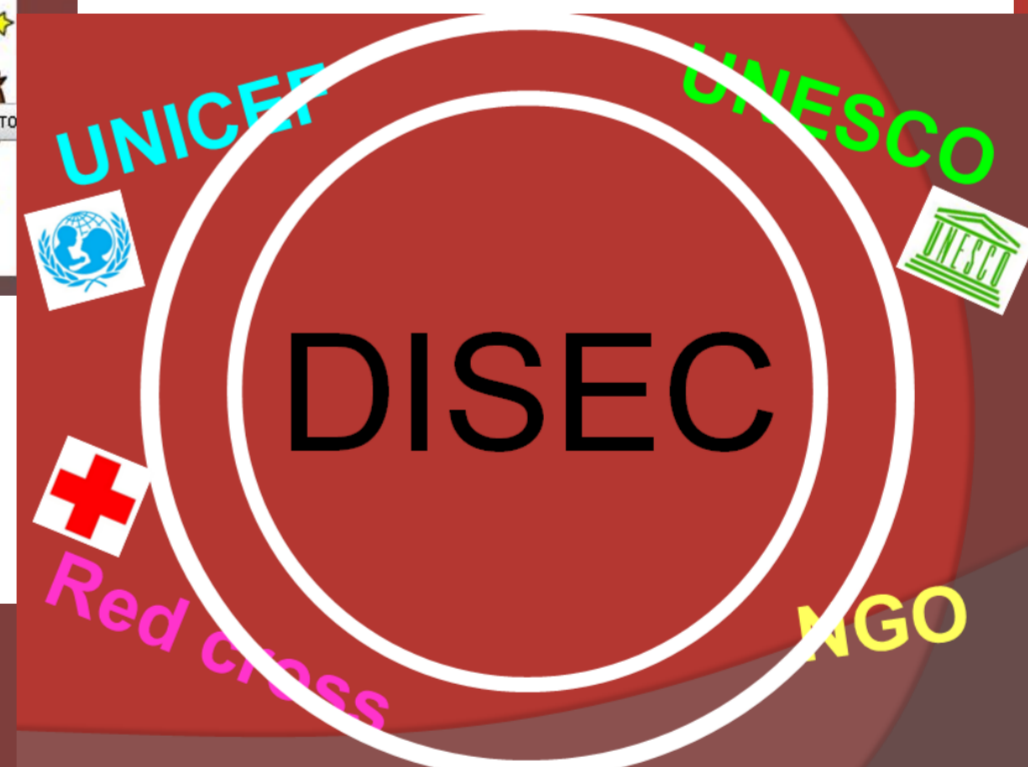
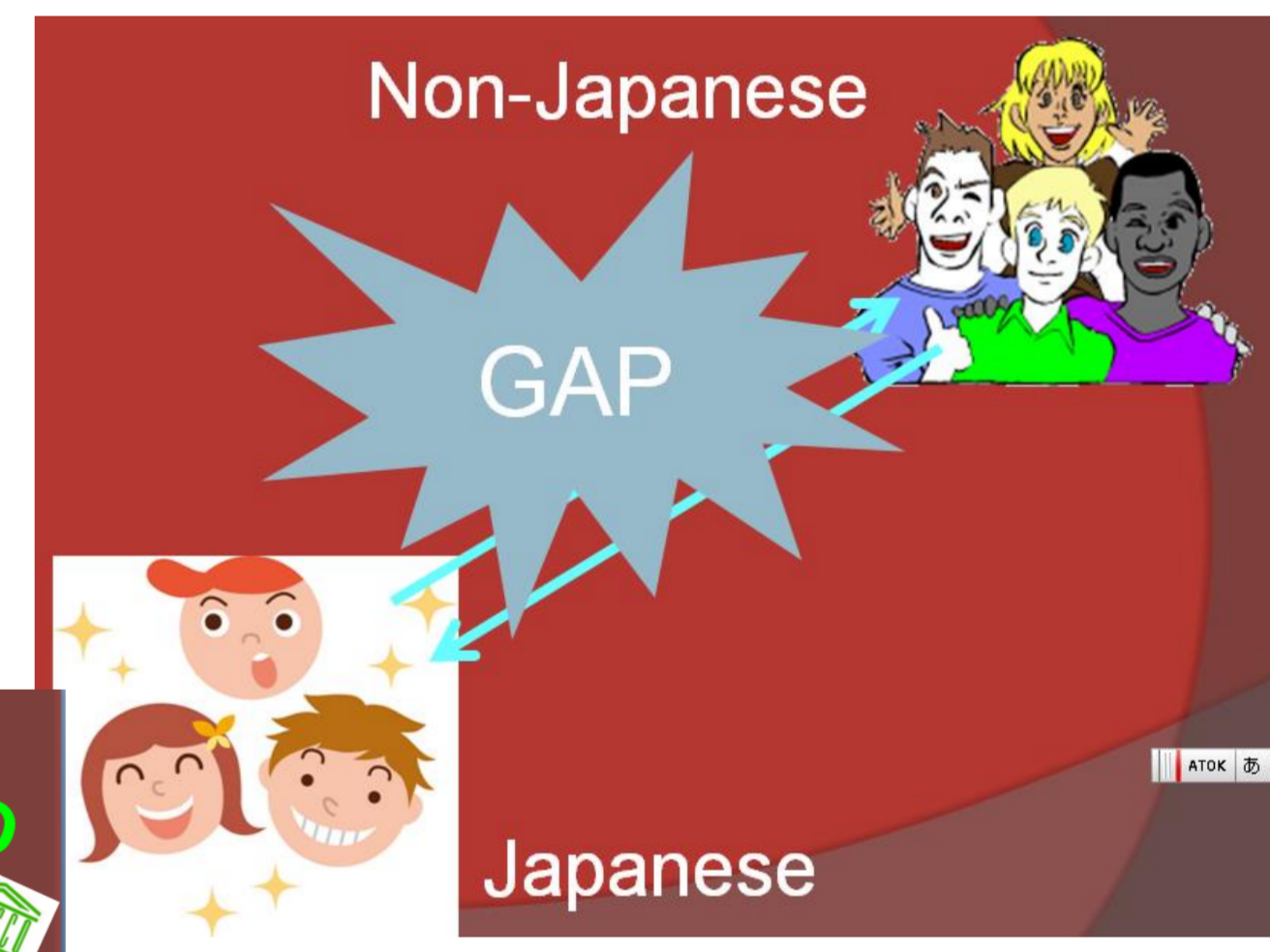
平成20年にさいたま市で開催された外務省主催「国連軍縮会議」における高校生プログラムを本校が担当しました。そのプログラムの中心では「ジュネーブ条約」の学習を通じて「ワールドネットワーク」の構築を提案しました。「国連軍縮会議」では、本校JRC部員が各国ヘデタリサーチを行った結果や米姉妹校クローバーヒル高校生や米国イェール大学生にインタビューした映像を基に参加高校生たちが世界の人々の現状について分析し、学習を深めました。さらにグループに分かれ人間の尊厳やジュネーブ条約の考え方を話し合いました。

平成22年の同プログラムでは「核や通常兵器の軍縮」について話し合い、高校生は「核軍縮と核不拡散」に向けた具体的な提案を行ったのが契機なり、その後、本校は先輩から後輩へ独自の活動を引き継いで豊かな社会の構築のために実践活動を進めてきました。

その後、市民フォーラムや署名活動を通じて世界に平和と安定に高校生としてメッセージの発信を続けています。



### 活動の詳細(実施内容/成果・実績など)



**Our Proposals**

- 1) The United Nations should tackle disarmament issues from an alternative humanitarian point of view
- 2) The United Nations should improve their PR strategy regarding nuclear issues

### 「発信力を持った活動」

#### 今後の展望

先輩達が行ってきた発信力をもつ活動は、国の内外に渡るものでした。海外姉妹校に対するリサーチ協力と依頼に多くの友人、米国・ネパール・トリニダードトバコ・韓国・シンガポール・マレーシア等の国から平和や人道に関する価値ある資料をいただきました。その時に言葉や文化を越えた絆を強く感じました。同じ高校生からのメッセージはこころを打つものでした。それは、この地上にいる人々がお互いに平和に対して強い意志をもつこと、協力し、豊かな社会を築くこととなります。

最近では「模擬国連」活動をはじめ英語での発信力を持つ活動を通じて、リサーチ・考察・発信を繰り返すことにより、多くの仲間や集団からリーダーシップが身に付けることを強く感じました。



### 活動団体プロフィール

身近なエコ・キャップ回収活動を通じてポリオワクチンを発展途上国に送っています。先生方や職員の方々、また、そのご家族の方々からの協力も得ています。保護者・PTAの方々からは、オリジナル・エコバッグ推進運動の理解を得て、温かい手を差し伸べていただいています。エコバッグ配布には募金という形で寄付をいただきました。それをネパール地震緊急救援に送ることもできています。現地へのリサーチには国際緊急援助隊救助チーム派遣されたメンバーの方に直接お会いして、お話を伺うことができました。また、日赤の保健医療チームは、シンデュルバルチョーク郡メラムチ村の診療所や山間部での巡回診療などを継続してきました。現地での動画による情報も市民に伝える企画を行いました。これまでに寄せられて情報を基に、人間の尊厳に関する「市民フォーラム」では地域の方々からのメッセージを含め温かい応援もいただいています。